

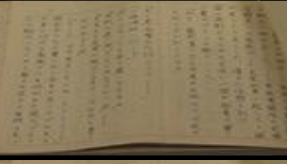
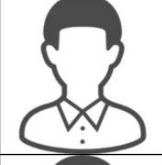
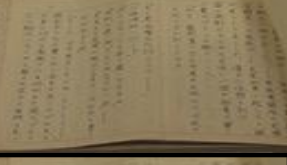
体験記1-1

画面イメージ	映像素材	ナレーション	祈念館修正依頼
 堀弘明さん 1年生	遺影画像	堀弘明さん一年生。	
 	※GE45-17 遺影画像	弘明さんは、雑魚場町の建物疎開作業中に被爆し、似島の収容所に運ばれました。	
	※一中	父、輝人さんは、草津の自宅から、学校にかけ付けました。	
	※撮影_星は見ているを開く		
	※GE15-22	7日、一中の生徒は、先生とともに日赤病院で手当を受け、	
	※SA132-1	トラックで宇品に向かい、似島方面へ多数送られ、	
	※SG-0049-06	多くの兵隊さんが「一中の生徒を救え」と一生懸命にやって下さったという情報を得た。	

体験記1-2

画面イメージ	映像素材	ナレーション	祈念館修正依頼
	※似島	早速似島に渡った。検疫所の栈橋を渡ると、ものすごいほどの男女学生が避難し、生き地獄そのままの状況を呈していた。	
	※GE04-34	軍医がかけまわってはいるが、なかなか手はゆきとどかない。	
	※GE26-11	呻き叫ぶ生死の境をさまよう群衆の中を、私は「一中の生徒はいないか」と絶叫して回った。	
	※GE26-11クローズアップ	弘明は、一番奥の兵舎の一隅の板張の上に横臥していた。	
	※GE18-18	パンツ一枚で、全身火傷。わが子の日常の姿は全く認められず、火ぶくれになって顔面はふくれ上がり、	
	※3102-0005	パンツのネームと軍の荷札の名前によって、ようやくわが子と確認するほどであった。	
	※NG469-07	長男は昏睡状態だが、苦しく寝返りをしたがる。	

体験記1-3

画面イメージ	映像素材	ナレーション	祈念館修正依頼
	※SG-0042	熱と毒素にうなされて無意識のうちに語ったことを枕の傍らで書き取った。その一部である。	
	遺影画像	「兵隊さん、お茶か水ください」	
 	遺影画像 体験記	「先生は御無事ですか、一中の先生は御無事ですか」	
 	遺影画像 体験記クローズアップ	「分度器の目盛がこまくなければいけません」	
 	遺影画像 体験記クローズアップ、文字を追う	「番号を打ちましょうか。先生、僕が行ってきます。図面へ番号を打たいでもよいのですか」	
 	遺影画像 体験記クローズアップ、文字を追う	「僕、もう死にそうです」 「先生、帰らしてください」 「宿題があるんです」	
	遺影画像	「桃が美味しかったのー。生れてはじめて食った。田村や三島にもやって下さい」	

体験記1-4

画面イメージ			映像素材	ナレーション	祈念館修正依頼
   			※7102-0071	十日の夜になって急に容体が変化し、軍医も度々カンフル食塩注射をして下さった。	
			※NG032	そのたびに「いたいの一」とかすかに声を出すのみであった。	
			※GE29-48	呼吸次第に困難になり、手先、足先などから次第に冷たくなり、遂に永眠した。	
			※GE11-22	大変に惜しい子供さんを失われたと、付き添いの方々、看護婦、軍医まで惜しんで下さった。	
			暗転		